

東京都立 青山 英語 出題傾向と対策

出題傾向の分析

22年度入試も、大問数は昨年と同様でした。[1]はリスニングの問題で、共通問題と同様でした。[2]は、会話文の中にさまざまな設問が入っています。22年度入試では英作文が2題になったものの、1文あたりの語数の制限は5語以上10語以内と、比較的少なめになりました。会話文とはいえ、文章は非常に長く、そこに下線や空欄が盛りこんでいるので、あらかじめ設問を確認しておくことも必要でしょう。[3]は水についての文章でした。適文を選択し挿入する問題や、言い換え、下線部の表す具体的な内容を答える問題が中心となっています。また、「自己の考えを簡潔に英語で表現する能力をみる」という出題方針のとおり、文章の内容に関連した部分英作文が出題されました。

入試までに準備しておくこと

共通問題との大きな違いは、問題形式の種類が多い点と問題量が多い点です。よって、中1からの十分な復習と速く正確に読む練習が必要です。教科書と同じレベルかやや難しいレベルの問題をたくさん解き、慣れておく必要があります。問題傾向が3年間大きく変化していないため、過去の

の問題をしっかり解き問題形式に慣れることも大切です。また、さまざまな問題形式に対応する力をつけるために、他の自校作成校の入試問題、他県の入試問題などいろいろな種類の問題に触れることも必要です。

単語の問題は中1から中3までの単語が幅広く問われます。教科書レベルの基礎単語ではありますが、綴りのミス、時制、単数と複数などに注意する習慣をつけることが大切です。選択形式の空所補充問題、語形変化を伴う語順整序や部分英作文問題は、偏りなく文法の練習をすることで点を上げることができます。部分英作文の練習は、ただ問題を解くだけでなく、主語、動詞、時制、単数複数、前置詞、単語の綴りなど、ミスをしてしまいがちなポイントをチェックしながら作文する習慣を身につけることが点数アップに効果的です。会話文、長文問題は文が長いことと内容一致問題で内容の全体的な把握をしているかどうか問われることから、内容をしっかり理解しながら速く読むことが重要になります。英語の語順で左から右へ文を読み進めること、時間を計って一度読んだ文を何度も読み、時間を縮めていくことなどが効果的です。リスニング問題は、継続的な英語を聞き取る練習が必要です。過去の問題や英検3級程度の聞き取り問題で練習することが効果的です。

英語 分野別出題形式		22年度	21年度	20年度	
リスニング	記号	内容理解(含英問英答)	12	12	12
	記述	英問英答	4	4	4
		和問和答	4	4	4
	小計		20	20	20
語彙	記号	綴り			
		語形変化 発音・アクセント			
	小計		0	0	0
文法	記述	適語(句)選択			
		適語(句)補充			
		語順整序	4	4	4
	記号	部分英作			
		完全英作 正誤問題・誤文訂正			
小計		4	4	4	
読解	記号	内容理解(含英問英答)	16	22	20
		内容一致	10	4	12
		段落・文整序			
		段落・文・節挿入	12	8	4
		適語(句)・文選択	8	8	10
		語順整序			
	記述	内容理解(指示語など)	10	6	
		語形変化			
		空所補充	4	8	14
		和文英訳			
		部分英作		4	4
		英問英答			
		条件英作 和問和答	16	12	12
小計		76	76	76	
合計点		100	100	100	

東京都立 青山 国語 出題傾向と対策

出題傾向の分析

例年通りの大問 5 題の構成で、総小問数は 26 題でした。

一は、漢字の読み取りです。「きよそ」など誤答の多い問題や、四字熟語の読みも出題され、昨年度までよりやや難しくなった印象があります。

二は漢字の書き取りです。「不世出」「直情径行」など、三字熟語・四字熟語が出題され、読み取り問題と同様、やや難しくなった印象があります。

三は小説文からの出題です。例年、心情を問う問題が多く、短めの字数で記述形式の解答をする問題がありました。

四は論説文からの出題です。200 字の小論文も出題されました。例年、傍線部の説明を求める問題が多く出題されます。

五は例年、鑑賞文が出題されます。詩や、短歌や、俳句の他、漢文の鑑賞も含まれます。幅広い分野に関する知識が必要です。また、今年度は理由を端的に記述する出題もありました。

全体として、分量が多いため、時間内に解き終わるように練習をする必要があります。

国語 出題分野一覧表		22年度		21年度		20年度	
		記号	記述	記号	記述	記号	記述
漢字語彙	漢字の読み取り		10		10		10
	漢字の書き取り		10		10		10
	四字熟語・語彙						
文法・表現							
敬語							
資料を含む文章							
小説	心情を問う設問	10		15	5	13	
	場面を問う設問	10	5	5		8	4
	語句						
	本文との正誤問題						
論説	接続語の補充						
	傍線部の理由を問う設問			5			
	傍線部の説明を問う設問	10		15		8	7
	段落関係を問う設問	5					
	語句						
鑑賞文	本文との正誤問題	5				5	
	接続語の補充						
	傍線部の理由を問う設問	5	5				
	傍線部の説明を問う設問			15	5	5	
	韻文の表現を問う設問	5	4			5	
	語句	6		5		5	
随筆	本文との正誤問題					10	
	接続語の補充						
	傍線部の理由を問う設問						
	傍線部の説明を問う設問						
	段落関係を問う設問						
作文	語句						
	本文との正誤問題						
合計			100		100		100

入試までに準備しておくこと

漢字の書き取りは小中学校で学んだものから出題されますが、四字熟語・三字熟語の出題も頻繁にあるので、基礎的な四字熟語・三字熟語の知識を身につけておいたほうがよいでしょう。また、熟語の意味が難しいため、漢字そのものが難しくなくても書くことができない問題もあります。

傍線部の説明を求める出題が多く、選択肢の内容をよく理解する必要があります。長めの文章を素早く読む練習をしておくといでしょう。過去問を演習する際に、時間を計って解く練習をする必要があります。また、記述問題対策として、過去問での練習が必要です。

東京都立 青山 数学 出題傾向と対策

出題傾向の分析

出題構成は例年通りの大問4題、うち1題が独立小問集合形式で、総小問数は、14題でした。

①は平方根、連立方程式、2次方程式の解法と、特殊な方程式、確率、作図の6題でした。特殊な方程式は自然数という条件から答えを導くことができますが、あまり見ない形で、難しかったかもしれません。作図は正五角形の線対称な性質を利用するか、対角線の長さが等しいことを利用するかで解くことができました。

②は放物線と直線で、正方形の面積二等分、平行条件と傾きの公式、相似の利用の問題でした。基本的な考え方を集めた出題でしたが、記述問題は時間がかからないように、解答欄に図を書いてもよいでしょう。

③は円で、円周角、三角定規型の利用、円周角と中心角を利用する証明の問題でした。この問題のように、直角三角形の辺の比から三角定規型と分かることと、 45° や 30° の角度から三角定規型を作ることは頻出です。

④は空間図形で、面積、体積それぞれの基本問題、面を抜き出して考えていく空間内の線分の長さの問題でした。空間内の線分の長さは、その線分を含む断面を抜き出すことが基本ですが、直線と面との交点までの長さという条件が問題を分かりにくくしたと思われる。

入試までに準備しておくこと

出題傾向は毎年ほぼ変わりません。証明は難易度がやや高いが、平行線の同位角・錯角、円周角の定理、中点連結定理などの組合せで解けることもあるので、基本を徹底してください。全体としては標準レベルの問題も多いため、計算ミスなどによる取りこぼしのない演習をしていく必要があります。日頃から、素早く解くことと、見直しをすることを意識して、取り組んでいきましょう。

領域	内容	配点		
		22年度	21年度	20年度
数と式	数の性質・表現			6
	数の計算			
	式の計算			
	平方根	6	6	12
	多項式の乗法			
	因数分解			
	小計	6	6	18
方程式	1次方程式			
	連立方程式	6	6	6
	2次方程式	6	6	
	方程式の応用	6	6	
	不等式・不等式の応用			
	小計	18	18	6
関数	比例と反比例			
	1次関数		14	
	2次関数			
	変化の割合・変域			
関数と図形	直線と曲線	7	6	5
	関数と図形	14	7	16
	小計	21	27	21
三角形・四角形	角度			
	作図	7	7	7
	合同			9
	相似	8	8	
	三角形			
	平行四辺形			
円と平面図形	円周角の定理	6	6	5
	円と弧・弦・接線			
	線分、線分比	7		7
	面積、面積比		7	
	点の移動と図形			
空間図形	線分、線分比	8	14	21
	面積、面積比	6		
	体積、体積比	7	7	
	点の移動と図形			
	回転体、球			
	小計	49	49	49
確率	場合の数			
	確率	6		6
総合問題	数と式			
	図形			
	その他			
	小計	6	0	6
	合計	100	100	100